

令和7年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験について ～実証実験に参加する事業者を採択しました～

国土交通省道路局は、物流危機への対応やカーボンニュートラルの実現を図るため、道路空間に物流専用スペースを設け、クリーンエネルギーを電源とする無人化・自動化された輸送手段により貨物を運搬する新たな物流システム「自動物流道路」の構築を推進しています。

今般、令和7年7月31日から令和7年9月5日まで公募を行った、「令和7年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」について、事業者を採択しましたので、お知らせいたします。今後、実験実施に向けて採択事業者と実験計画の調整をしていきます。

■採択事業者

別添資料に記載のある事業者

■公募時の記者発表について

令和7年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験について（令和7年7月31日）

https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001972.html

（参考）

自動物流道路に関する検討会 国土交通省ホームページ

https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/buturyu_douro/index.html

自動物流道路（オートフロー・ロード） 国土交通省ホームページ

https://www.mlit.go.jp/road/autoflow_road/

自動物流道路の実装に向けたコンソーシアム 国土交通省ホームページ

https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/autoflowroad_consortium/index.html

<問合せ先>

道路局企画課道路経済調査室 企画専門官 遠藤、係長 村松

代表：03-5253-8111（内線 37-622、37-623）、直通：03-5253-8487



採択事業者一覧

参加グループ	ユースケース
野村不動産株式会社、株式会社 IHI、株式会社 IHI 物流産業システム、ナカオ工業株式会社、 フジトランスポート株式会社、 株式会社 NX 総合研究所	ユースケース 1、6
株式会社豊田自動織機	ユースケース 1
株式会社大林組、PLiBOT 株式会社、 日本マイブルロボットテクノロジー株式会社、 NTT ドコモビジネス株式会社	ユースケース 2
大成建設株式会社、株式会社ティアフォー、 大成ロテック株式会社	ユースケース 2、4
成田国際空港株式会社、千葉県、PLiBOT 株式会社	ユースケース 2、4
Cuebus 株式会社	ユースケース 2
鹿島建設株式会社	ユースケース 3
NTT ドコモビジネス株式会社、株式会社大林組、 PLiBOT 株式会社、日本マイブルロボット テクノロジー株式会社、セーフィー株式会社	ユースケース 4
前田建設工業株式会社、株式会社 TBM システムズ、 ワム・システム・デザイン株式会社	ユースケース 5

- 建設中の新東名高速道路の区間における2027年度までの実験実施に先立ち、既存の技術・施設における実験を通じ、自動物流道路の実装に向けた技術的課題の検証および運用に必要な条件整理等を行うため、6つのユースケースに沿って実証実験を実施。

実験場所：国土技術政策総合研究所の試験走路（申請者より提案のあった場所での実施也可）

実験期間（国総研）：11月19日（水）～12月26日（金）、2月2日（月）～2月28日（土）

ユースケース①

拠点：無人荷役機器による荷役作業の効率化

無人荷役機器によるトラックからの荷積み・荷卸し、搬送機器への積み替え作業の自動化に必要な床面積、作業時間などについて検証



ユースケース②

本線単路部：搬送機器の自動走行

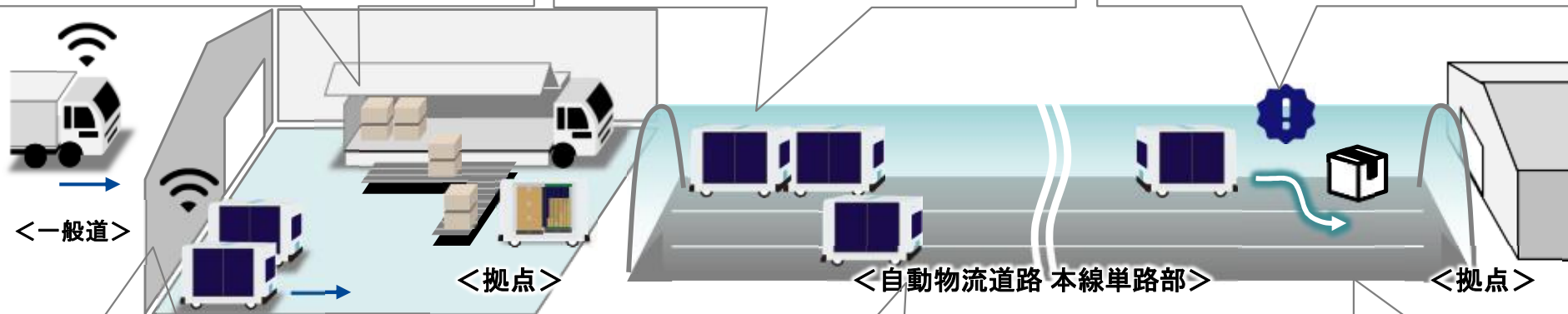
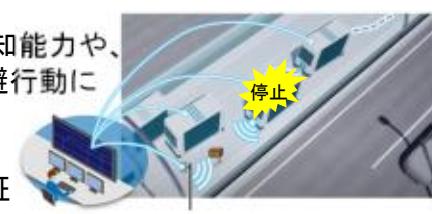
速度や荷物重量の異なる搬送機器の自動走行の状況、必要な道路幅、走行環境、荷物への影響などを検証



ユースケース③

本線単路部：異常検知及び搬送機器の回避行動

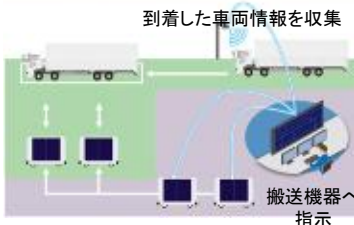
異常発生時の検知能力や、それに対する回避行動における走行技術および制御の精度について検証



ユースケース⑥

拠点：搬入車両の到着予定情報の情報提供

搬入車両の到着予定情報をシステムで受信し、搬送機器へ指示。車両の到着に合わせて搬送機器をスタンバイさせる運用について検証



ユースケース⑤

その他：搬送機器の運行管理

搬送機器や荷物の運行状況を管理するためのシステムについて、その有効性と課題を検証



ユースケース④

本線単路部：搬送機器の通信安定性

トンネルなど通信環境が不安定な状況下においても、自動走行が可能かどうかを検証

